

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所 グループホーム 万富の郷

日付 平成19年2月2日
評価機関 特定非営利活動法人
 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年
 評価調査員 ケアセンター介護支援
 専門員経験5年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「食事の献立を立てる時は、利用者の皆さんと一緒に考えます。うちの畑にある取立ての野菜を毎日たっぷり使って。旬の物は本当に美味しいですね。ここでは毎日30品目の食材は使っていると思いますよ」と嬉しそうに話してくれる職員の言葉通り、ホームの菜園の大根その他の野菜は青空に向かって大きく伸び上がり、利用者には収穫の喜びや調理の楽しみがある。黒大豆もぎ、大根おろし、ゴボウのササガキ等、テーブルの上でゆっくりと昔話をしながら行う。台所仕事は私に任せて、といった感じの さんは、職員にあれこれ差配して満足げた。活発に動けなくなった利用者も多く、リビングルームでの炊事その他の家事、縫い物やちぎり絵、ゲーム等の趣味や楽しみ事が、顔なじみになってしまっている職員と共にゆったりと暮らす為の生きがいとなっているようだ。

「一軒の大きな家を目指しています」と言う管理者の夢は、地域の人達の協力や交流で実現しつつあると思う。壁の写真を見て、「後楽園の菊花展か？」と思ったら、老人会の人達がホームの玄関で菊花を展示していると言う。ホーム内の暮らしだけでなく、地域の子供達や町内会、近隣の人も入り交じった一軒の大きな家に成長する事は、ホームの為だけでなく、地域にとっても大きな財産になるだろう。

また、ここの素晴らしい事の一つは、社長の存在ではないかと思う。「私は専門的な事は何も分からない素人でして…」と言うが、あちらに行けば“お父さん”になり、こちらに来ては“息子”になる。男同士のお喋りあり、女性利用者と新聞を見ながら話しながら花を咲かせる。ニコニコした風船のような存在が、職員の仕事の隙間を埋めている。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

「万富の郷だより」は毎月ホームの行事や暮らしの様子を家族等に知らせているが、さらに、内容や伝え方、利用方法を工夫して有効なものにしていただきたい。
 たよりは勿論の事、家族会、その他の場面で、このホームの運営方針や問題点等を家族や地域の人達に知らせ、共に考えていく姿勢を示して欲しい。

I 運営理念

番号	項目	できています	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項	グループホームとしてめざしているものは何か ケアプランの「本人の意向」の欄に「ここがイヤではありませんが、家の事が気になります。毎日、家に帰ることばかり考えています。でも、それまでは、ここでゆったりしたいと思っています。のんびり寝ているのが好きです」という記録がある。もちろん利用者全員という訳にはいかないが、このホームでは、「本人の意向」の欄に、本人の表現をそのまま記録し、その思いを出来る限り尊重し、ケアプランを立て、モニタリングを丁寧に行こうという意欲が強く感じられる。「足が悪いので、少しずつ歩きたい」と言う希望を持つ人に対する職員の支援の経過、そして現在の状況もしっかり見る事が出来た。職員間の意思疎通もとてもうまくいっているようで、連帯感も感じられた。法人内異動の他には職員の異動が殆んど無く、「馴染みの関係」がしっかり出来上がっている事も、良いケアが続けられている要素となっているのだろう。「認知症を患っても、秘められた自分の力を活かしながら、穏やかに誇りを持って暮らしていただきたい」という、このグループホームが目指しているものが、こういった基盤の上に成り立っていると思う。		

生活空間づくり

番号	項目	できています	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 暖かな良い季節なら、菜園や散歩、日向ぼっこにふさわしい環境だろうが、今は冬。日中は殆んどの人がリビングルームで過ごす。食事以外一日中好きな縫い物をして過ごす人、炊事に余念のない人、テレビの人、独りで居たい人、思い思いの過ごし方を職員は支援し、その為の空間づくり、お膳立てをしている。通りがかりの人がトイレを借りに来たり道を尋ねたり、子供達や、犬の訪問も、良い場づくりとなっている証拠だろう。		

ケアサービス

番号	項目	できています	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できています	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	ブライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か うーんと唸りだしそうな程上手習字や刺子の作品、職員も少し手助けするがセンスのあるちぎり絵、ロール巻きの作品等、利用者一人ひとりの力と今の意欲をしっかりと見極めて、やりたい事が思う存分出来る様、職員は支援している。そして、リビングルームに貼り出したり、地域の文化祭に展示して見学に行く等して、利用者と共に喜び合っている。家事をこなす事に生きがいを感じている人にはしっかりと働いてもらって感謝の言葉を、また、今あまり人と関わりたくないと言う人には独りでいられるようにしている。食事はみんなと一緒にではなく、自分部屋でと言う人もある。その人の今の思いや、希望を、可能な限り尊重し叶えたいと願う職員の気持ちがあちこちで感じられた。		

IV 運営体制

番号	項目	できています	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 今年5月から開催されている運営推進会議では、回を重ねる毎に良い成果をあげている。民生委員や老人会、役場の人、利用者の家族等と良い交流が出来、色々な場面での協力体制が出来たり、お互いの要望も話し合っ、このホームがこの地域のものになりつつあると思う。ホームの問題点についても、家族や地域の人達に相談しておけば大きな力になるに違いない。この事は火災訓練や災害時の近隣の協力依頼の件で、もう既に了解済みと聞いた。日頃の交流とネットワークが重要になるだろう。		